



QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

圧倒的なニューレコードで5戦連続ポールポジションの中須賀克行

驚異的なタイムで自身の持つコースレコードを1秒以上更新 中須賀克行が5戦連続ポールポジションを獲得! 24週のレース、ライバルたちはどう戦うのか!?

ディフェンディングチャンピオンの中須賀克行の速さが際立つ公式予選となった。前週には、世界最高峰のMotoGPクラスにスポット参戦し、並み居る強豪を相手に互角の走りを見せた。そのいい緊張感を、そのまま今回の岡山国際ラウンドに持ち込み、集中して走れていることがタイムにつながったと言う。今シーズンの中須賀は、開幕戦こそ、フルモデルチェンジして登場したYZF-R1のテスト不足が響き、2位に甘んじたが、第2戦から今回まで5戦連続でポールポジションを獲得。4連勝を飾っており、今回も中須賀について行けるライダーがいるのか? というほどの強さだ。金曜日の走行で1分28秒291をマーク。早くも自身の持つコースレコードを上回っており、土曜日の公式予選で、どんなタイムを出すのか注目されたが、予想を超える速さを見せた。Q1では1分28秒410でトップにつけると、10台が進出するQ2では、何と1分27秒182という、とてつもないタイムをたたき出す。これまでのコースレコードを1秒以上更新し、区間ベストを足すと1分27秒フラットと、1分26秒台も見える驚速振りだ。

「1分27秒台に入れたいと思っていたので、自分自身でもビックリしました。鈴鹿8耐を挟み、ニューR1が仕上がってきていることと、チームスタッフの頑張りが大きいですね。決勝は、まずスタートを決め

てライバルの出方を見たいですね。ここ4年間は、いずれも、そのパターンで勝つことができていますから」と中須賀。

MotoGPからJSB1000に乗り換えると、絶対的なスピードが違いため、どんな操作もスローモーションになり余裕ができると言う。常人には理解しがたい世界だが、世界最高峰を知るライダーが感じる世界があるのだろう。

2番手には、ヨシムラの津田拓也が1分28秒643で続いた。「マシンの状態はまずまずです。中須賀選手や高橋選手に対して、足りていない部分は分かっているので、その部分を解消して決勝に臨みたいですね」と津田。前戦で2位に入り、ようやく歯車が噛み合い始めているだけに、中須賀について行きたいところだ。

3番手の高橋巧もMotoGP日本グランプリからの連戦。金曜日から調子よく乗っていたが、予選開始早々にヘアピンで他車と絡み転倒。ピットに戻りマシンを乗り換えてコースに戻りQ1で1分28秒987を記録し2番手。Q2では、1分28秒833までタイムを削っている。

「アベレージは悪くありません。レース序盤は1分28秒台で走ることができると思いますので、中須賀選手を逃がさず勝負できる位置にいたいですね」と

高橋。事前テストでは、ロングランを行い、昨年の中須賀の優勝タイムは上回っていると言う。

4番手には、今季一番の仕上がりといい柳川明がつけた。「今の自分に27秒台は考えられない数字だけれど、2番手以下は接戦になっているので、24周とレースは長いので、最後までしっかり戦えるようにしたいですね。残り2戦3レースを全力で走りますよ」とコメント。チームメイトの渡辺一樹は、事前テストで転倒し足を痛めてしまっており、今回は厳しいレースになりそうだ。

第3戦ツインリンクもてぎの事前テストで転倒し、足を骨折していた中富伸一が、ようやく本調子に戻り5番手。野左根航汰が2列目最後の6番手にすべり込んだ。「中須賀選手の速さを見ると同じR1乗りとして凹みますが、調子は悪くないので、また表彰台に上られるように頑張ります」と野左根。3列目には、加賀山就臣、山口辰也、渡辺が並ぶ。

中須賀が驚異的な速さを見せており、津田と高橋が、どこまでついていけるかがカギとなるだろう。24周という長丁場となるだけに、タイヤマネジメントも重要だ。中須賀がシーズン5勝目を挙げ、4連覇に王手をかけるのか? それとも違う結末が待っているのか!? シーズン終盤の一大一番となる岡山国際ラウンドに注目しよう!



予選2番手 津田拓也



予選3番手 高橋巧

POLE POSITION INTERVIEW



ISB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

ポールポジション:1分27秒182 R
#1 中須賀克行
YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『1分27秒台に入ればいいかなと思っていたところQ1では、決勝タイヤで近いタイムが出ましたし、金曜日の2本目でソフトタイヤを使ってアタックの練習をしていたので、うまくタイヤを使い切れたことがタイムにつながったと思います。MotoGPに出て、いい緊張感や集中力が、いい状態のまま今回のレースウィークに入れていますし、それがタイムにも現れていますね。7年ぐらいい抜かれないタイムを出したかったですし、4年連続ポールトゥウインができていたので、その記録を伸ばしたいですね。今回勝つことができれば楽に最終戦を迎えられますし、足もとすぐわれないように集中して戦います』

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

國峰琢磨が今季2度目のポールポジション!! 「いい流れをつかんで逃げるレースがしたい」



國峰琢磨



ポールポジション:1分37秒029
#55 國峰琢磨
P.MU 7C HARC

『金曜日の走行で去年のポールタイムと変わらないタイムが出ていましたし、予選でも同じぐらいのタイムは出たかったのですが、フィリングが合わずグリップをつかめなくて、タイムを伸ばせずに終わってしまいました。アジアタレントカップでは、暫定ランキング2番手ですが、全日本では2回しかリザルトが残っていないので、今回は勝ちたいですね。ここまでの流れだと、レースは逃げられると思います。転倒だけはしないようにします』

快晴となった岡山国際サーキット。最初の予選J-GP3クラスは9時20分に40分間のセッションがスタート。セッションの開始早々、モニターのトップには1分38秒3で國峰琢磨が立つ。水野涼、栗原佳祐、澁田農央ら若手が上位に顔を並べる。古市右京、安村武志、菊池寛幸、徳留真紀らのベテランもタイムを更新していく。

トップの國峰はセッションの中盤までにタイムをじわじわと縮め、37秒029まで上げてトップをキープ。水野、栗原、澁田らも後半のアタックで37秒台までタイムを更新していくが、結局、國峰が第3戦もてぎに次いで今季2度目のポールポジション獲得となった。

2番手は37秒414で水野、37秒952の栗原がフロントロウ、2列目には澁田、安村、古市、続いて徳留、ゲリー・サリム、宇井陽一の順となった。



水野涼

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

高橋裕紀、5連続ポールポジション!! 「今回は絶対にポールポジションを取りたかった」

高橋裕紀



ポールポジション:1分31秒825
#1 高橋裕紀
MORIWAKI RACING

J-GP2クラスの公式予選は、序盤、高橋裕紀が早くも1分31秒台でトップに立つと、さらに初日を上回る31秒657をマークすると、31秒台での周回を重ねていく。2番手に井筒仁康で32秒687、3番手に32秒966で岩田悟、さらに石塚健、日浦大治朗、渥美心らが続く。関口太郎、大木崇行らもタイムを上げてくる。セッションも後半に入ると、各ライダーともタイムを削り、アタックが激しくなってくる。

高橋が31秒480とタイムアップしてトップをキープ、関口が32秒407で奪った2番手を岩田が32秒367で上回って獲得するが、序盤に下位に沈

んでいた生形秀之が中盤以降に33秒台まで上げると、最終ラップで一気に32秒063までタイムアップして2位に浮上した。しかし高橋のタイムを上回る者は現れず、結局開幕からの連続ポールポジションを5に伸ばすこととなった。

なお、高橋は、第5戦もてぎでのペナルティポイントにより、今大会の予選ベスト5タイムを削除されることになっていたが、それでもポジションは変わらず、タイムは1分31秒825でのポールポジション獲得となった。

『事前テストがアジア選手権と重なり参加できず、その前にスポーツ走行にも来たのですが、Moto2に向けてのテストだったので、今回はぶっつけ本番のような状態でしたが初日からいいリズムで走ることができました。今回は、TOP5のタイムが抹消され、6番目のタイムが有効というペナルティを受ける予選でしたが、それでも絶対にポールポジションを取ろうと、チーム一丸となって頑張りました。40分間、毎週毎週これが最後だと思い全開で走りました。決勝用タイヤでも変わらないタイムが出ていたので、レースでは、スタートを集中して、自分のペースで走ろうと思っています』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW



デチャ・クライサーが新方式でポールを獲得! 「決勝はベストを尽くして勝ちたい」

ST600 Supported by BRIDGESTONE



國峰琢磨



ポールポジション:1分33秒520
#46 デチャ・クライサー
Yamaha Thailand Racing Team

今大会から新しい予選方式が導入されたST600クラス。一つのセッションを各15分間のQ1、Q2の2部構成とし、Q2では、Q1の上位12台と13位以降のそれぞれの最終グリッドが決まる、というルール。タイヤ本数制限はそのまま適用され、予選／決勝で1セットのまま。最初のQ1ではほぼ全車が開始直後からコースイン、最初の2〜3周でアタックを終えるという流れとなった。その結果、トップの横江竜司以下、デチャ・クライサー、稲垣誠、大久保光、大崎誠之、チャランボン・ボラマイ、榎戸寛育、岩戸亮介、奥野翼、前田恵助、田尻克行、12位の中本郡までがトップ12となった。

10分のインターバルを経て始まったQ2でも、やはり上位陣のアタックは2周ほどで、ワンチャンスによるシビアなものとなった。その結果、1分33秒520でデチャがポールポジションを獲得した。これは、J-GP2クラス参戦している2013年のここ岡山大会以来となる。

2番手には34秒019で横江、34秒111でチャランボンとYamaha Thailand Racing Teamがフロントロウを独占、2列目に大久保、大崎、岩戸と続く。13番手はQ2で11番手にあたる34秒972をマークした近藤湧也となった。

『事前テストでは、ドライとレインの両方走ることができ、どちらでもいいセッティングを出すことができていました。レースウィークに入っても、マシンはいい状態でしたし、ポールポジションを獲得することができてうれしいですね。2013年の岡山国際でJ-GP2クラスで獲って以来、2年振りでですね。今回は予選の方法が変わったので難しかったですね。やはりレーシングライダーとしては、タイヤを2セット使えるようにして欲しいですね。決勝に向けて作戦は考えていないですが、ベストを尽くして優勝を目指します』

MFJ Superbike Round8 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA 17 - 18 October 2015

公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走36台
●決勝スタート/14:10 (24周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	1'27.182R
2	12	津田 拓也	ヨシムラスキシエルアドバンス	GSX-R1000L5	1'28.643
3	634	高橋 巧	MuSASHI RT/ハルクプロ	CBR1000RR	1'28.833
4	87	柳川 明	TeamGREEN	ZX-10R	1'29.143
5	85	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	1'29.306
6	8	野左根 航汰	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	1'29.330
7	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'29.490
8	104	山口 辰也	TOHORacingwithMORIWAKI	CBR1000RR	1'29.654
9	26	渡辺 一樹	TeamGREEN	ZX-10R	1'29.799
10	33	藤田 拓哉	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	1'30.137
----- 以上Q2にて決定 -----					
11	73	浦本 修充	MuSASHI RT/ハルクプロ	CBR1000RR	1'30.083
12	090	秋吉 耕佑	au&テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'30.250
13	41	伊藤 勇樹	41Planning.Global communication	YZF-R1	1'30.691
14	53	渡辺 一馬	au&テルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'30.711
15	39	酒井 大作	CONFIA Flex Motorrad 39	S1000RR	1'30.923
16	32	今野 由寛	Moto Map SUPPLY	GSX-R1000L5	1'31.290
17	97	亀井 雄大	Honda 鈴鹿レーシングチーム	CBR1000RR	1'31.677
18	135	寺本 幸司	Team Tras 135 HP	S1000RR	1'32.089
19	11	吉田 光弘	Honda 熊本レーシング	CBR1000RR	1'32.096
20	22	田村 武士	テイクアップOIRF	GSX-R1000	1'32.489
21	54	中津原 尚宏	オートテクニクススポーツPGR	CBR1000RR	1'32.531
22	14	小島 一浩	Honda 熊本レーシング	CBR1000RR	1'32.703
23	23	清水 郁巳	HondaDream高崎B'WISE RT中央前橋	CBR1000RR	1'32.865
24	25	武石 伸也	CONFIA Flex Motorrad 39	S1000RR	1'33.275
25	36	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'33.856
26	13	須見 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1098R	1'33.875
27	136	児玉 勇太	Team Tras 135 HP	S1000RR	1'33.888
28	88	相馬 利胤	TT45&CWR	YZF-R1	1'34.095
29	46	筒井 伸	DOGFISHオーテックスズカ	CBR1000RR	1'34.292
30	99	吉田 和憲	icuRT&モトキッズ 大阪メビウス Navel Rose	YZF-R1	1'34.335
31	49	今津 比呂志	ブラズワンMCRT & TOM FLYBOARD JAPAN	ZX-10R	1'34.846
32	111	藤本 悦生	TeamFuji111☆L&R	GSX-R1000L2	1'35.146
33	45	森 健祐	HondaブルーヘルメットMSC熊本	CBR1000RR	1'35.824
34	28	樋口 耕太	H.L.O RACING	GSX-R1000L3	1'36.093
----- 以上Q1にて決定 -----					
----- 以上予選通過 -----					
35	705	黒川 武彦	保険職人SPEED Party	CBR1000RR	1'37.909
36	96	村上 雅彦	チーム・ムラカミ	ZX-10R	1'39.460

R印は、コースレコードを更新した。(従来のレコード:1'28.370)
公式予選Q1上位3台の平均タイムの110% 1'37.743



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走35台
●決勝スタート/15:35 (19周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	46	A1 Decha KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'33.520
2	6	A2 横江 竜司	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'34.019
3	65	A3 Chalermpol POLAMAI	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'34.111
4	39	A4 大久保 光	Ymobile&Kohora RT	CBR600RR	1'34.384
5	3	A5 大崎 誠之	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'34.426
6	45	A6 岩戸 亮介	Team高武 RSC	CBR600RR	1'34.527
7	14	A7 前田 恵助	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'34.539
8	38	A8 榎戸 育寛	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'34.598
9	7	A9 稲垣 誠	AKENOSPEED・MIC	YZF-R6	1'34.872
10	54	A10 田尻 克行	Team RSC	CBR600RR	1'34.911
11	16	A11 奥野 翼	AKENO SPEED	YZF-R6	1'35.037
12	24	A12 中本 都	リリカ AMENA with OutRun	YZF-R6	1'51.715
13	9	B1 近藤 湧也	GBSレーシング YAMAHA	YZF-R6	1'34.972
14	27	B2 高橋 颯	TEAM PLUSONE	CBR600RR	1'35.326
15	15	B3 中山 真太郎	TEAMしんたろうwithKRT	CBR600RR	1'35.611
16	50	B4 森中 忍	Fresh Paint+B~dash106+LW	CBR600RR	1'36.029
17	77	B5 井上 拓海	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR600RR	1'36.038
18	51	B6 宗和 孝宏	51ガレージチームイワキ	YZF-R6	1'36.363
19	12	B7 津田 一磨	Team TSUDA	GSX-R600	1'36.390
20	31	B8 瀬崎 恭広	カメイレーシング&Teamまんだい	ZX-6R	1'36.772
21	47	B9 北見 剣	エスバルスドリームレーシング	GSX-R600	1'37.239
22	82	B10 名越 哲平	MuSAHi RT Jr.	CBR600RR	1'37.275
23	73	B11 水澤 笑汰郎	MuSAHi RT Jr.	CBR600RR	1'37.345
24	40	B12 伊藤 和輝	Ymobile&Kohora RT	CBR600RR	1'37.627
25	83	B13 松本 正幸	Teamマキユーリー&モスト	ZX-6R	1'38.256
26	48	B14 定井 満	カメイレーシング☆ガレージA'	ZX-6R	1'38.272
27	25	B15 森 賢哉	RC甲子園 特殊部隊&J-TRIP	YZF-R6	1'38.299
28	91	B16 喜井 勝弥※	Team GRIFFON&池田モーターズ	YZF-R6	1'38.319
29	55	B17 長谷川 直樹	Moto Ride HMF	GSX-R600	1'38.607
30	42	B18 松下 幸司	[GRAND fine Racing]	CBR600RR	1'38.664
31	53	B19 河端 清次	Teamカワサキマキユーリー	ZX-6R	1'39.171
32	44	B20 林 祥由	DKR	CBR600RR	1'39.756
33	70	B21 田口 敏雅	チーム備前精機&バナナハンズ	YZF-R6	1'39.862
34	92	B22 福島 正樹	ToyBoy&F&MMRT	CBR600RR	1'40.786
35	88	B23 宮脇 健二	Trip Trap&亀甲堂	YZF-R6	1'40.947

----- 以上予選通過 -----
クラス区分:A=Aグループ(Q1で1~12位)、B=Bグループ(Q1で13位以下) ※数字はグループ内での順位
※ゼッケンNo.91は、Q1時の予選通過基準タイム (110%) 1'42.905をクリアした。



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走22台
●決勝スタート/11:05 (19周)

Pos.	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	MD600	1'31.825
2	2	生形 秀之	エスバルスドリームレーシング	GSX-R MFD6	1'32.063
3	10	岩田 悟	NTST.ProProject	NH6	1'32.367
4	44	関口 太郎	MISTRESA with HARC-PRO	HP6	1'32.407
5	70	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'32.668
6	11	井筒 仁康	WILL-RAISERACINGRS-ITOH	ZX-6R	1'32.687
7	18	瀧美 心	au&テルル・Kohara RT	TSR2	1'32.860
8	35	日浦 大治郎	MORIWAKI RACING	MD600	1'32.874
9	9	大木 崇行	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'32.952
10	95	石塚 健	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'33.439
11	46	星野 知也	SYNCEEDGE 4413 Racing	HP6	1'33.480
12	71	山元 聖	Team KAGAYAMA	GSX-proto71	1'34.028
13	81	上和田 拓海	ウエビックチームノリックヤマハ	YZW-N6	1'34.226
14	75	作本 輝介	Team高武 RSC	CBR600RR	1'34.271
15	16	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'34.428
16	15	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR2	1'34.744
17	392	長尾 健吾	ミクニ テリアードカリー	GSX-R600	1'34.844
18	36	亀井 駿	NTST.ProProject	NH6	1'35.837
19	79	朝比奈 正	アサヒレーシング	Z600	1'36.038
20	55	清水 保	ボディショップシミズ&Mercury	ZX-6R	1'37.502
21	22	小口 理	ALLMAN&OWRACING	YZF-OWR6X	1'38.223
22	29	赤間 清	MISTRESA with HARC-PRO	HP6	1'38.568

----- 以上予選通過 -----
予選通過基準タイム (110%) 1'40.628



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走26台
●決勝スタート/10:00 (19周)

Pos.	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	55	Y	國峰 琢磨	P.MU 7C HARC	NSF250	1'37.029
2	634	Y	水野 涼	MuSASHI RT/ハルクプロ	NSF250R	1'37.414
3	12	Y	栗原 佳祐	MuSASHi RT Jr.	NSF250R	1'37.869
4	17	Y	濫田 農央	TEAM-iFACTORY	NSF250R	1'37.952
5	28	Y	安村 武志	犬の乳酸菌.jpプリミティブR.T	PRCS3	1'38.081
6	10	Y	古市 右京	KTM RACING.ASPIRATION	RC250R	1'38.096
7	4	Y	徳留 真紀	TOME TEAM PLUSONE	NSF250R	1'38.116
8	31	Y	Gerry Salim	Astra Honda Racing Team	NSF250	1'38.180
9	410	Y	宇井 陽一	41Planning.Global Communication	TR04	1'38.306
10	11	Y	菊池 寛希	TEAM TEC2&NOBBY	NSF250R	1'38.354
11	24	Y	船田 俊希	FLEX Racing TEAM	NSF250R	1'38.440
12	27	Y	南本 宗一郎	オーテック・スズカ+RGニフ	TSR3	1'38.568
13	39	Y	真崎 一輝	Team RSC	NSF250R	1'38.618
14	26	Y	関野 海斗	P.MU 7C HARC	NSF250	1'38.626
15	20	Y	山本 恭裕	チームライフ・ドリーム北九州	NSF250R	1'38.709
16	21	Y	大内田 拓	オーテック・スズカ+RGニフ	NSF250	1'38.789
17	47	Y	古澤 幸也	FLEX Racing TEAM	NSF250R	1'38.925
18	22	Y	岡崎 静夏	Ymobile&Kohara RT	NSF250R	1'38.947
19	23	Y	高杉 奈緒子	モトバムwithヒポボマス	NSF250R	1'39.094
20	40	Y	三原 壮策	Team NOBBY & TEC2	NSF250R	1'39.409
21	30	Y	中山 愛理	TECHNICA with KUSHITANI 西宮	NSF250R	1'39.732
22	53	Y	金子 寛	AutoMac翔天恭SATORACING	NSF250R	1'39.768
23	34	Y	岸田 慶一	FLEX Racing TEAM&MH OHARA	NSF250R	1'39.957
24	37	Y	川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA	NSF250R	1'40.515
25	46	Y	村井 浩志	ZAPPERRacing with YERC	NSF250R	1'41.368
26	45	Y	太田 虎之進	CLUB PLUSONE	NSF250R	1'41.710

----- 以上予選通過 -----
区分:Y=ユースカップ登録者
予選通過基準タイム (J-GP3:110%) 1'46.732

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!
今シーズンはレース6日後の土曜日夜7時から!

2015年シーズンも全日本ロードレース選手権シリーズ全戦を「BS12 TwelIV(トゥエルビ)」で完全無料放送。しかも、今シーズンはレース開催6日後の土曜日夜7時から放送です!
迫力のバトル、車載カメラによる映像などをお楽しみください!!

■放映スケジュール

第8戦岡山国際 10月24日(土) 19:00~19:55

ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM

コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信! スマホ対応です。

YouTube

YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

MFJ Live CHANNEL

TV収録用高画質映像を決勝レース終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

